

「関係人口」が及ぼす ソーシャルインパクト

目次

概要・・・・・・・・・・・・・・・・	3
調査概要・・・・・・・・・・・・	4
交流事業の「交流」の特長・・・・	5
交流事業の活動風景・・・・・・・・	6
大学生にとっての交流の価値・・・・	7
住民にとっての交流の価値・・・・	9
まとめ・・・・・・・・・・・・・・	12

概要

「交流」に関する調査を初めて実施



2020年、新型コロナウイルスの流行によって交流事業が全て中断したことを機に、これまでの「交流」にはどのような価値があったのかを初めて調査した。そして、調査結果は同年10月発行の「広田町内外の交流に関するアンケート調査報告書「交流」にはどんな価値があったのか？」にまとめられた。その後、住民が大学生との交流でどのような影響を受けているのかをもっと詳細に明らかにするために、住民へのヒアリング調査を追加で実施した。

本レポートは、2020年度に実施された交流の価値に関する一連の調査をまとめ、交流事業における大学生等の「関係人口」が及ぼすソーシャルインパクトを明らかにするものである。

参考

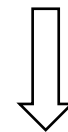
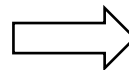
広田町内外の交流に関するアンケート調査報告書「交流」にはどんな価値があったのか？(2020年)
<https://set-hirota.com/2020/12/20/6547/>

調査概要

2020年度に実施したアンケート調査とヒアリング調査をまとめたもの

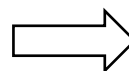
アンケート調査

	広田町民向け	大学生向け
期間	2020年6月中旬 ～2週間	2020年6/21～7/3
対象	広田町995世帯	コロナ前の交流事業 に関わった450名
方法	アンケート調査票	Googleフォーム
回収率	16%	18%



アンケート調査

	広田町民向け
期間	2020年8月～2021年1月
対象	民泊家庭を中心とした大学生との 交流のある町民61人



「交流の価値」
2020年度調査
(本調査)

交流事業の「交流」の特長

地域にハマる「交流」から様々な波及効果が生み出されている

①何度も地域を訪れ、深く交流

Change Maker Study Programでは、運営スタッフの大学生はプログラム実施期間中に何度も活動地域を訪れる(表1)。
 何度も地域を訪れることによって住民と深い関係を築くことができ、大学生・住民の双方にとって価値のある交流となる。

表1: Change Maker Study Programの大学生スタッフの現地入り(一例)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
プログラム開始					プログラム終了
	現地入り (2日間)	現地入り (2日間)	現地入り (2日間)	本番準備等 (7日間) 本番期間 (7日間)	
※上記以外を含めると半年間で少なくとも22日間現地入りすることになる					

②まちづくりアクションを住民と実施

Change Maker Study Programは、大学生と住民がともにやってみたいことを実行する地域おこし実践プログラムである。
 また、町と僕らの未来開拓プロジェクトでは、地元の中高生と大学生がともに地域の未来や自分たちの将来について考え、アクションを起こす。
 大学生・住民との共通体験となるアクションの実施によって、その後のコミュニケーションや活動が活発になる。



交流事業の活動風景

Change Maker Study Program



町と僕らの未来開拓プロジェクト

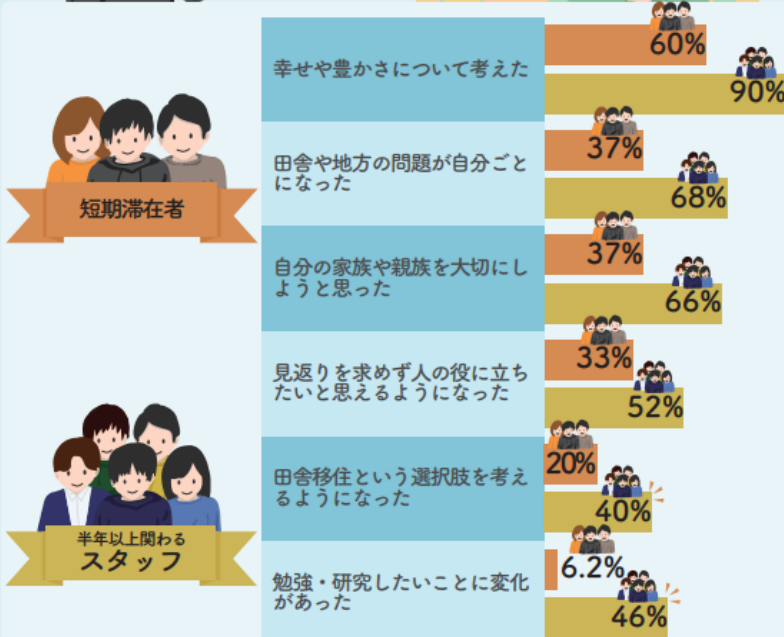


大学生にとっての交流の価値

①考え方や価値観への影響

3 若者向けアンケート結果

スタッフとして長期間広田町に関わり続けている人は
考え方や価値観が大きく影響を受けている



②町や人の変化を実感

スタッフとして長期間広田町に関わり続けている人は
町や人の変化を実感している



「計量テキスト分析」を用いました
膨大な文章の中で何度も使われている
単語や言い回しの頻度を測る分析方法



交流を通じて広田町にはどのような変化が生まれると思いますか？



いろんな世代と関わることで町に**元気**が出る
町が**元気**付いてくれたらいいな
ありふれた日常が**元気**づく などなど…

「元気」「町」という言葉を多用していた。



人生の楽しみが**増える**
楽しみにしてくれる町の人も**増える**
前向きな人が**増える**
生き生きしている町の人が**増える**
笑顔や笑いが**増えた**気がする などなど…

「人」「増える」という言葉を多用していた。

大学生にとっての交流の価値

③自分の住む地域や社会への貢献



-テキスト分析-

・町の人との交流の価値について

「町の人との交流は何か」という問いに対し、「自分」「人」「価値(観)」という言葉が多用されていた。いくつか挙げると、

-自分-

自分で何かを実践的に学んでいく環境がある
目を向きたい地域や問題が自分ごとになる

-人-

いろんな人の人生に触れられること
人との関わり方の考えに変化が生まれること

-価値(観)-

新しい価値観が広田町内に流れる
さまざまな生き方をしてきた人たちの価値観に刺激される

住民との交流によって学びや価値観の広がりがあると考えていることが分かる

住民にとっての交流の価値

①幸福度



ヒアリング調査をふまえて

・地域内外とのつながりの増加

特に民泊受け入れ家庭は、民泊の受け入れや民泊女子会を通じて地域の人々とのつながりができている実感を持っている。

民泊においては、遠方から民泊に来る人が多いため、日本全国につながりを持っていると実感している人もいます。実際に、東京大学のホームカミングデーなどのつながりが持続している。

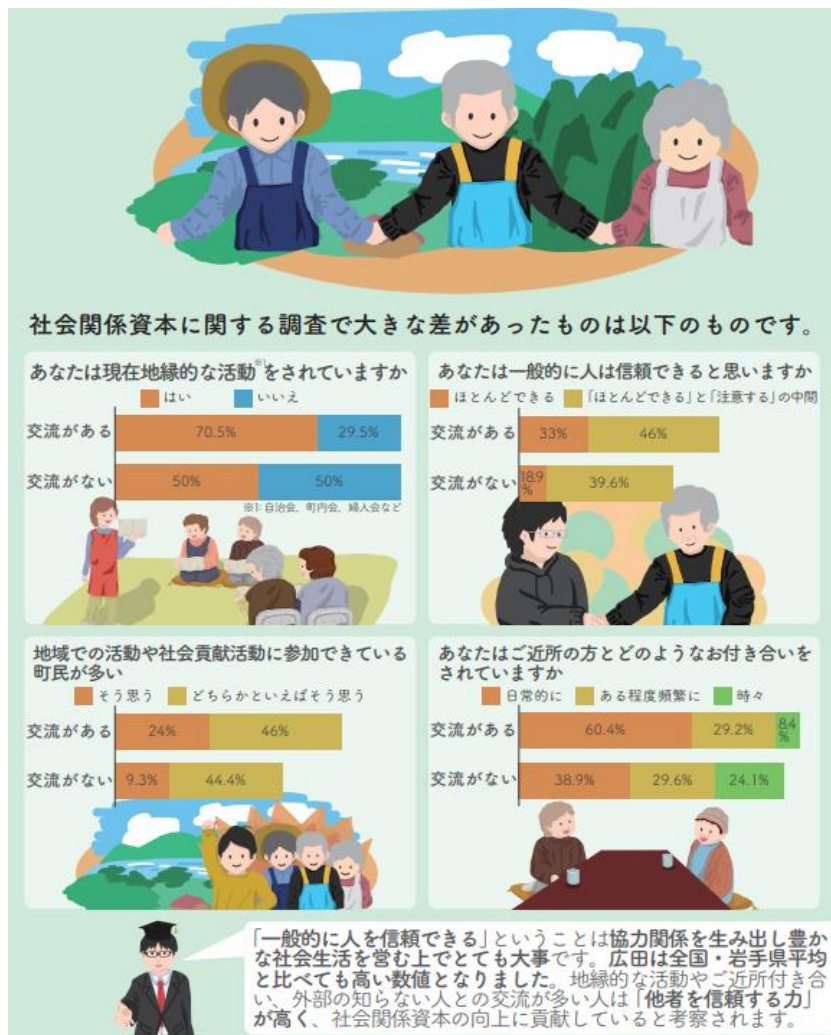
・自然環境への意識の変化

もともと自然環境への意識が高い人が多い。

自然環境への意識に変化のあった人は、若者がごみ問題に関心を持っていることによって意識が変わっている人がいた。また、若者が都会にはない星空や海などの自然の素晴らしさを伝えることで改めて広田の自然の素晴らしさを実感している。

住民にとっての交流の価値

②社会関係資本



ヒアリング調査をふまえて

・大学生と交流をしようと思ったきっかけ

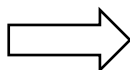
大学生との交流を始めたきっかけは、震災後から現在にいたるまで様々な出会い方があり、震災復興ボランティア、CMSPのフィールドワーク、民泊などが様々な場合がある。ただし、交流を始めるきっかけとしてはこの町を学生が歩き回っていることによる出会いが大きかった。

・大学生を受け入れ続ける理由

楽しいから、SETが一生懸命だからという理由が多かった。

住民にとっての交流の価値

③社会への貢献意識



ヒアリング調査をふまえて

・交流による町への貢献

貢献意欲が高まると回答した人は、おおむね広田町に若い人が来ること自体が貢献であるという回答だった。民泊や大学生の受け入れによって、関係人口やお祭りの担い手、移住者が増加しているという意識があることが分かった。

回答者の約半数が町への貢献意欲には変化がないと回答した。ただし、「自分の意欲がなくなった分を、SETの人たちに後継者のように、応援しようと思ってる」「俺自身には変化はない。元々自分がやろうとしていたことに仲間が増えてきたかな、という感覚」という回答者もいた。

まとめ… 「関係人口」が及ぼすソーシャルインパクト

